

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
当ホームは郊外の住宅地の中に位置し、旧民家の素晴らしい和風庭園を活かした居住空間と、広い園庭(広場)を有しており、季節を感じながらゆったりとした日常生活が送れるよう配慮されたホームである。基本理念に掲げられている「ゆっくり」「いっしょに」「たのしむ」が職員全員の意識にしっかりと浸透しており、入居者一人ひとりの違いを尊重した個別性の高い自立支援をめざしたサービスが提供されていた。職員相互の連携が円滑に行われるよう入居者の状況、サービス提供等がつぶさに記録され、よく整理されていた。地域との関係も良好で交流が深まっていた。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	要改善点は特になし(現状の維持、そして更なる充実が期待される。)
運営理念	
II	要改善点は特になし(現状の維持、そして更なる充実が期待される。)
生活空間づくり	
III	要改善点は特になし(現状の維持、そして更なる充実が期待される。)
ケアサービス	
IV	要改善点は特になし(現状の維持、そして更なる充実が期待される。)
運営体制	

分野・領域		項目数	「できている」項目数
			外部評価
I 運営理念			
①	運営理念	4項目	4
II 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
III ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	7
⑤	介護の基本の実行	8項目	8
⑥	日常生活行為の支援	10項目	10
⑦	生活支援	2項目	2
⑧	医療・健康支援	9項目	9
⑨	地域生活	1項目	1
⑩	家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制			
⑪	内部の運営体制	10項目	10
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	4

2. 評価報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己					
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○			管理者は、グループホームに関わる法令の意義を十分に理解されており、運営方針等を職員会議等で全職員に徹底されていた。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしむ」の運営理念を毎朝当日のスタッフ全員で復唱されていた。	
2	3	○			玄関ホールに壁に運営理念を明示した大型のポスターが掲示されており、入居者及び家族にもわかりやすく説明されていた。	
3	4	○			重要事項説明書及び利用契約書に利用者の権利・義務について記載されており、入居者及び家族に説明し同意を得、交付されていた。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5	○			運営理念が記載されている「楠の木園だより」(毎月発行)を地域で回覧してもらい、啓発・広報に努められていた。	
運営理念 4項目中 計		4	0	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○			敷地の入り口から建物との間は百坪ほどの広場になっており、玄関付近には和風の前庭、季節の草花が植えられた花壇があり、開放的で家庭的な雰囲気づくりがなされていた。	
6	7	○			旧民家の日本庭園を囲んで居室や居間が配置され、日常的に季節を楽しむことができる。部分的に改修を施し、民家改修型の良さが活かされ家庭的な雰囲気を有していた。調度や設備も家庭的であった。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			庭に面した居間にはゆったりとしたソファが配置され、入居者同士が自由に団欒できる。そのほか広縁や玄関ホールも自由に利用できるようになっていた。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			居室には、それぞれの入居者が使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が自由に持ち込まれ、安心して過ごせる居室づくりがなされていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			トイレには洋式の保温便座、廊下や縁側、トイレに手すり、浴室には滑り止めが施され、入居者の身体機能の低下に合わせて安全かつ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がなされていた。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			各入居者の居室の入口には、似顔絵入りの表札が掛けてあった。トイレには大きく「トイレ」と表示するなど、入居者が混乱なく行動できるように工夫されていた。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			夏場、西側の部屋にスダレを設けて日射しを調節するなど、入居者が落ち着いて暮らせるよう配慮されていた。職員の会話も明るく静かであった。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			気になる臭いや空気のだよみはなく、換気が適宜行われていた。各居室にはエアコンが設置され温度調節が適切になされていた。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			日付の大きいカレンダーを居間にかけ、入居者と一緒に確認しながらめくるようにされていた。また大型の壁掛け時計が居間や玄関ホールに設置され、時の見当識への配慮もなされていた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			ほうき、裁縫・編物道具、はり絵道具、三味線など入居者の経験や趣味が活かせる馴染みの用具が用意され、それぞれに利用されていた。また、じゃがいもの皮むき、豆のすじとりなど料理の下ごしらえを手伝っている入居者もおられた。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			入居者一人ひとりの特徴を把握し、入居者主体の目標を立てた具体的な介護計画が作成されていた。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			毎月のサービス担当者会議で全職員による意見交換を行い、出された意見や気づきを採り入れた介護計画が作成されていた。作成後はいつでも各職員が見られるように保管してあった。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			介護計画については、入居者及び家族に相談して作成されており、作成されたものについては説明を行い、同意が得られていた。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画に実施期間が明記されており、期限が終了する際に見直しが行われていた。また、状態の変化に応じた見直しもなされていた。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			各入居者の日々の食事、入浴、排泄、服薬等の介護状況や特徴、状態の変化等について詳細な記録がなされており、日々の介護や介護計画に反映されていた。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			処遇日誌(全体日誌)の申し送り事項欄にその日の申し送り事項や情報が記入され、朝夕の交替時に確実に伝える仕組みがとられていた。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			毎月定期的にサービス担当者会議が全職員参加で開催され、活発な意見交換が行われ、合意が図られていた。会議は詳細に記録され、会議録としてまとめられていた。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は入居者一人ひとりを深く理解し、丁寧な言葉かけや一人ひとりの違いを尊重したさりげない介助を行うなど、人格を尊重した対応がなされていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			職員の言葉かけや態度はゆったりとして穏やかであり、受容的な態度で見守られていた。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			あらゆる機会を通して入居者一人ひとりの生活歴や本人にとって大切な経験・出来事などの把握に努め、そのことを活かしてその人らしい暮らしができるよう支援されていた。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			職員主導ではなく、入居者一人ひとりのペースを尊重し、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援されていた。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			入居者の自己決定を尊重し、希望を表したりすることができるよう、ゆっくり選ぶのを待つ姿勢で支援が行われていた。	
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			自立支援を図るために、入居者ができることは時間がかかっても自分でできるよう見守り、必要に応じて一緒に行うよう支援がなされていた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束は行わないことをすべての職員が十分に認識して、身体拘束のないケアが実践されていた。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			入居者の自由な生活を支え、心理的な圧迫をもたらすことのないように、鍵かけは全くされていなかった。	
介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0		

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
						(2)日常生活行為の支援 1) 食事	
30	43	○				食器は陶磁器や漆器が使用されており、湯呑みや箸等は入居者一人ひとりの使い慣れたものを利用されていた。	
						家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	
31	44	○				入居者一人ひとりの身体機能に合わせて、すり下ろしたり、刻み食にする等、咀嚼や嚥下に配慮した調理方法がとられていた。盛り付けもおいしく食べられるよう工夫されていた。	
						入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	
32	45	○				入居者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量、栄養のバランスは一日全体を通して把握され、記録されていた。	
						入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	
33	47	○				職員も入居者と同じ食卓で同じ食事を一緒に食べ、入居者に楽しくゆっくりと食べてもらうよう配慮されていた。食べこぼし等にはさりげないサポートが行われていた。	
						職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	
						2) 排泄	
34	48	○				排泄記録により入居者一人ひとりの排泄パターンが把握されており、歩行困難な入居者には手をかしながらトイレへ誘導するなど排泄の自立に向けた支援がなされていた。	
						おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
35	50	○				排泄の誘導、介護や確認、失禁の対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して適切に行われていた。	
						排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	
						3) 入浴	
36	53	○				毎日入浴できる体制が作られており、入居者の一人ひとりの希望にあわせてくつろいで入浴ができるよう支援されていた。	
						入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	
						4) 整容	
37	56	○				家族の付き添いで美容院を利用される方もあるが、入居者の希望により職員が同行して美容院を利用する、外出支援もされていた。	
						入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にささりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			整容の乱れがあった場合や食べこぼし、口の周りの汚れなどは、入居者の気持ちを大切に、さりげない支援が行われていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			天気の良い日は園庭を利用して散歩やお茶の時間を過ごしたり、居間でレクリエーション等を楽しんだり、一日の生活リズムを通した安眠策がとられていた。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			自分でお金をもつことの大切さを職員が認識し、一定額の金銭を所持し、買物等を通して日常の金銭管理が行えるよう、入居者の希望や力量に応じた支援がなされていた。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			調理の下ごしらえ、食器洗い、洗濯物たたみ、掃除など入居前の生活習慣や得意なことが発揮できる場面づくりに努めておられ、入居者自身が出番を見出せるよう支援が行われていた。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			看護師が職員として配置されており、協力医療機関も確保されていた。また、入居者がかねて受診しているかかりつけ医とも連携がとれているので、入居者の心身の変化や緊急時に対応できる体制ができていた。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			入居者が入院された場合は、本人、家族の希望の支援、医療機関との話し合いや連携により早期退院にむけた働きかけが行われていた。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			入居者はそれぞれのかかりつけ医による定期健康診断や、指導を受けられるよう支援がなされていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			レクリエーション、リハビリ体操が取り入れられているほか、買物、散歩、楽しみごとなどの日常生活の中で身体機能の維持・向上が図られていた。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			日頃から良好な人間関係づくりに配慮されている。入居者同士のトラブルが起こった場合には、職員が双方の話を十分に聞き、円満に解決するよう図られていた。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			毎食後の歯磨きや入れ歯の手入れなど口腔の清潔保持が励行されていた。自力のできる入居者は自分で行い、不十分な入居者には声かけや誘導が行われていた。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			看護師を中心に職員は、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援が行われていた。誤薬防止のためのチェック体制もきちんとしていた。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			緊急時の応急手当については、毎月の職員研修会で周知徹底が図られており、全職員が応急手当を行うことができる体制をとられていた。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症予防マニュアルが作成されており、それに基づいた予防や対応が実行されていた。職員研修会においても周知徹底が図られていた。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			ホームの中に閉じこもらないように、天気の良い日は散歩や買物などの外出を楽しめるよう雰囲気作りがなされていた。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族はいつでも気軽に訪問ができ、訪問時には本人はもとより、他の入居者とも一緒にゆっくり歓談したり歌を歌うなどされており、居心地よく過ごせる雰囲気づくりがなされていた。宿泊もできるよう配慮されていた。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人代表者及び管理者は、ともにケアサービスの質の向上に熱意を有し、話し合いを重ねながら共に取り組みがなされていた。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			介護従事者の採用、運営方法、入居者の受入れや継続の可否については、職員会議等で職員の意見を聞き、協議して決定されていた。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の状態や生活の流れに応じた勤務のローテーションが組まれていた。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			研修計画が掲示され、職員がそれぞれの段階に応じて研修を受講でき、その内容は職員研修会等ですべての職員に伝えられていた。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			管理者は、スーパーバイザーとして業務上のアドバイスを行ったり、職員との相互親睦を図るための食事会を行うなど、職員のストレス解消を図られていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			管理者が入居希望者及び家族との面談時に情報収集を行い、グループホームに適した入居者であるか、職員とも協議を行って十分に検討がなされていた。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居については、その内容が契約書に明示されていた。また、退居に際しては入居者及び家族と十分な話し合いがなされ、納得のいく退居先に移れるよう支援がなされていた。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			布巾や調理器具等は毎日消毒し、その他ホーム内の清潔や衛生の保持についても細心の注意が払われていた。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬や洗剤、刃物等注意が必要な物品については、決められた保管場所に保管され、安全を保つための管理方法が明確に取り決められていた。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故や転倒などが発生した場合は、事故防止報告書(アクシデント報告書)がまとめられ、職員会議で事故防止について検討し、サービスの改善に向けた対策が講じられていた。	
内部の運営体制 10項目中 計			10	0	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査時には、快く積極的に情報の提供がなされた。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えられている。	○			苦情相談の窓口及び担当職員、利用の仕方が契約書及び重要事項説明書に明示されており、入所時に必ず入居者及び家族に説明されていた。また、その後も機会あるごとに繰り返し伝えられていた。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族が、気がかりなことや意見・希望を職員に気軽に伝えたり、相談したりできるように、訪問時に声かけをし、入居者の状況を話したりされていた。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○			家族には毎月発行される「楠の木園だより」が配布され、ホームの様子や入所者の状況が伝えられている。また家族の訪問時には写真を見てもらったり、具体的に入居者の暮らしぶりを伝えたりされていた。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			毎月、月初めに日用品費の購入予定額として入居者ごとに1万円を預かり、月末に使った分の領収書と残額を渡して清算されていた。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			2ヶ月に1回当ホーム主催で「運営推進会議」が開催され、町職員の出席もあり連携が深まっている。ホームの機能を活かした町事業の受託体制も整っていた。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			地域の自治会に加入され、ホームの運営推進会議に区長が参加されていた。毎月「楠の木園だより」を回覧してもらい、地域からは川掃除や庭木消毒の労力提供等があった。近所の人の立ち寄りも多く地域との交流が深まっていた。	
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			入居者の生活の安定を図るために、地域の駐在所、消防署等へ働きかけが積極的に行われ、協力体制が取られていた。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○			家族・ボランティア等の見学、近所の認知症の家族からの相談への対応など、入居者のケアに配慮しながらホームの機能を地域に開放されていた。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。